

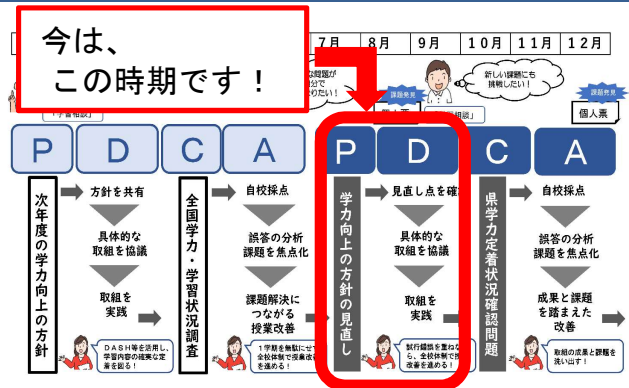
やまぐちっ子学力向上だより

第 1 3 3 号 R5.8.31

山口県教育庁義務教育課

学力調査の結果を踏まえたPlan（計画）の立案を

各学校においては、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて学力向上に向けた次へのPlan（計画）を立てておられることと思います。本号では、Plan（計画）を立てる際に心がけていただきたいことについてお伝えします。



子どものつまずきの見極め

設問ごとの正答率から子どものつまずきを安易に捉えるのではなく、「なぜそのような解答をしたのか」という解決過程・思考過程を想像して、つまずきを見極めていきましょう。そうすることで、子どもの実態に沿った授業改善の視点や必要な取組・手立てが浮き彫りになっていきます。

問題 → **解決過程・思考過程** → **解答**

※↑ここを想像してつまずきを見極める。
その上で、どのような授業改善をするのかを計画する。

つまずきを見極めるために、次の2つのような方法が考えられます。

つまずきを見極めるための方法①

課題を細分化してみる

例えば…

複数の情報を整理して自分の考えをまとめることに課題がある

↓ 細分化

- ① 必要な情報を取り出すことに課題？
- ② 取り出した複数の情報を関連付けて理解することに課題？
- ③ 自分の考えをまとめること（記述すること）に課題？

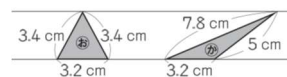
うちの学校の子どもは、どれが課題？



つまずきを見極めるための方法②

子どもの声を聞く

例えば…



どんなことを考えながら、この問題を解きましたか？解くときに困ったことはありましたか？



三角形の高さがどこなのかを探しました。高さが書かれていないから、面積は求められないと思いました。



面積の公式の理解
辺≠高さの理解
平行な線の概念的理解
に課題があるな。



つまずきに対する適切かつ具体的な授業改善の視点や取組・手立て

つまずきを見極めた後、それに対する適切かつ具体的な授業改善の視点や取組・手立てをもち、実践につなげていくことが大切です。その際には、次の3つを参考に見てください。

参考①

質問紙と教科調査結果のクロス集計から、学習活動のヒントを得る

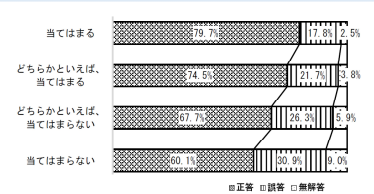
例えば…

質問紙「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか」に対して「当てはまる」と回答した児童は、「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」問題の正答率が高い。

「立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめる」学習活動を取り入れることが、授業改善の視点の一つであると考えられます。

クロス集計

児童質問紙における質問項目「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか」の選択肢ごとの、大問3-②における児童の解答状況(%)



この質問に肯定的に答えた児童の方が、大問3-②を正答している割合が高いです。立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめるなどの学習活動を充実させることが重要であると考えられます。

参考②

問題のための授業ではなく、育てたい姿を追求した授業をする

例えば… 条件に沿って、自分の考えを表現するのが課題

【問題のための授業】

- ①文章の言葉を引用しながら、
- ②50字以内で書きましょう。

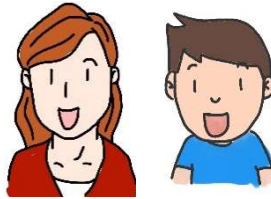


- 先生が出す条件を待つ子どもになる。
- 相手や目的等に応じて、どのような視点をもてばよいのかを考えない子どもになる。

【育てたい姿を追求した授業】

上級生に、自分たちの主張を伝えるために、どんな工夫をするとよいか？

では、文章の言葉を引用して、50字手程度で短くまとめましょう。



上級生が納得する根拠を引用するとよいと思います。パンフレットにするから、あまり長い文章ではないほうがよいですね。

- 相手や目的等に応じて、工夫して表現しようとする子どもになる。

参考③

カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、学んだことが実生活の中で役立つ機会を創出する

児童生徒質問紙より、学んだことよさや価値を感じることができていない子どもが一定数いることが分かっています。学んだことが実生活の場で生かされる経験ができるよう、教育活動全体を通してできることを考えていきましょう。

(50)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

